

令和3年度 金光大阪中学校・高等学校 学校評価報告書

1. めざす学校像

建学の精神	「人はみな神の氏子である」という金光教祖の広大かつ自然な教えにもとづき、すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う
教育理念	「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践 朝の祈りの成就 ＜朝の祈り＞ <ul style="list-style-type: none">・限りない天地のみ恵と 父母をはじめとする人類社会の恩恵に 深い感謝と喜びの心をもたせてください。・心身ともに健やかに 礼儀と規律を重んじ より良い習慣を身につけさせてください。・新たなる勉学への意欲をもって 真実を学び求め 大切なところを分かせてください。・共に思いやり、助け合い、信じ合って、明るく豊かな学校生活を送らせてください。・どんなに辛い苦しいことに出会っても 負けることなく元気な心で生き抜く力を与えてください。・人、物、時間を大切に し 少しでも世と人の助かるお役に立つ人間にならせてください。

2. 中期的目標

1. 豊かな人間性の育成	建学の精神に基づき、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」教育の実践。 <ul style="list-style-type: none">ア. 建学の精神に基づき、教育の主軸として、「人間平等」「個性尊重」「心を育む」を掲げ、宗教情操教育をはじめとする学校教育全般を通じて、互いの個性を認め、支えあう人間関係を作る。イ. いじめ問題、差別問題を生徒が自分の問題として考え、その解決を目指す力を育てる。
2. 生徒の主体的な活動の推進と学校文化の醸成	ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む。 <ul style="list-style-type: none">イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化。 ※各行事終了後アンケートにおいて、「達成感」「満足感」項目 4.1 (75%) 以上を維持し、令和6年度には4.2 (80%) 以上とする。
3. 次代を生き抜く確かな学力の育成	ア. 学習成果が、生徒一人ひとりの進路の展望につながる授業を推進する。 <ul style="list-style-type: none">イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、日常の教科学習への興味・関心を高める。ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開。エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続。 ※生徒アンケート教科学習に対する「丁寧な対応」、「適切な授業レベル」、「教員の熱意」の肯定回答率 4.2 (80%) 以上、「向上への意欲」の肯定回答率 4.0(70%)以上を令和6年度に達成する。
4. 「部活動に係わる基本方針」に則った部活動の推進	ア. 活動・経験を通じて各自のニーズに応じた豊かな学校生活の実現。 <ul style="list-style-type: none">イ. 生きる力の育成と心身にバランスのとれた人としての成長。ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動の推進。 ※新入生の部活動加入率 80%、卒部率 90%以上としそれを維持していく。
5. 異文化理解と多文化共生の考えを養う国際理解教育の推進。	
6. 教員の自己研鑽の推進と指導力向上	ア. 校内研修の推進と研究授業の充実 <ul style="list-style-type: none">イ. 校外研修への積極的な参加。 ※校内研修は最低年3回実施。毎年全教科研究授業を行い、教師間で切磋琢磨に努める。令和6年度には生徒アンケート「わかりやすい説明」「教材の工夫」についての肯定回答を90%以上にする。また、延べ100名の校外研修への参加を目指す。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析
全教職員 102 名より 12 項目 27 指標の回答を得た。結果 27 指標中、26 指標が 90%を超える回答であった。その中で、研修については、今後積極的に参加する必要がある。また、保護者、地域住民との連携については、84%であったが、担任については、概ね良好である。
学校評価委員会からの意見
<ul style="list-style-type: none"> ・成年年齢引き下げによる対応・指導はどうしているのか。(家庭科の授業で指導) ・授業アンケート質問 10.11 の点数が低いことについて対策は。(「主体的に取り組む」といった新学習指導要領に基づき改善を図りたい。) ・授業アンケートの質問項目はいつから使用しているのか。(数年前から使用。質問項目を適宜変更している。) ・携帯の持ち込みを可としてから、何か問題はああるか。(生徒指導上の問題が 1 件。ルール・マナーを守るよう指導していきたい。) ・退職者・着任者の人数は。 ・夏の時期にマスクを着用して体育の授業が心配。(熱中症対策と感染対策の両方気をつけていく)

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中 期 的 目 標	今年度の 重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1. 豊かな人間性の育成	<p>ア. 互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を作る。</p> <p>イ. いじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題とし、その解決を目指す力を育成する。</p> <p>ウ. 「部活動に係わる基本方針」に則った部活動の推進</p>	<p>ア. 建学の精神に基づき、教育の柱として「人間平等」「個性尊重」「心を育てる」を掲げ、学校教育全般において、互いの個性を認め、尊重しあう人間関係を築く。</p> <p>イ. 年度始めの人権教育推進委員会において生徒への指導計画を作成。人権教育推進委員会やいじめ防止対策推進委員会を定期的で開催し、生徒にいじめ問題、差別問題を一人ひとりの問題と考えさせ、その解決を目指す力を育成する。</p> <p>ウ. 合理的かつ効率的・効果的な活動を推進。活動・経験を通じて各自のニーズに応じた豊かな学校生活の実現をめざし、生きる力の育成と心身にバランスのとれた人間的な成長を図る。</p>	<p>ア. 学校生活アンケートの「友人関係」について、90%以上、最終的に100%が「安心できるもの」とする。</p> <p>イ. アンケート「いじめを知った時の対応」において、100%が「傍観者にならない行動をとる」と回答。</p> <p>ウ. 新入生の部活動加入率を 80%、卒部率 90%以上としそれを維持していく。</p>	<p>ア 88%の生徒が肯定的だが、4%の生徒が不安を感じている。懇談等で解消したい。(○)</p> <p>イ 97%の生徒がいじめを受けたことがないと回答。受けたことがあるは3%と昨年より少し上がっている。より一層の取り組みが必要。(△)</p> <p>ウ 新入生の部活動加入率は73%と例年より低い。3年生の卒部率は91%と目標達成。(○)</p>

<p>2. 生徒の主体的な活動の推進と 学校文化の醸成</p>	<p>ア. 学校教育全体を通して、自ら考え行動できる力を養い、自己肯定感を育む。</p> <p>イ. 生徒会を中心とした学校行事の活性化。</p>	<p>ア. 生徒主体の学校生活を更に推し進め、企画力を養い、達成感を高める。また、それらをキャリアパスポートを用い振り返らせ自己肯定感を養う。</p> <p>イ. 上記ア. の実現のためにも、今まで以上に生徒会活動を活性化させ、学校行事を通して生徒の人間的成長を図る。生徒文化を積み上げ、将来の学校文化、伝統をつくる。</p>	<p>ア. キャリアパスポートにおける主体的に取り組んだ項目を最低2項目/年以上挙げられるようにする。</p> <p>イ. 各行事終了後アンケートにおいて、「達成感」「満足感」項目75%以上を維持、80%以上をめざす。</p>	<p>ア 80%以上の生徒が主体的に取り組んでおり、目標を達成できた。今後に生かしたい。 (◎)</p> <p>イ 新たな行事を立案、計画でき、生徒会活動が充実してきた。 (◎)</p>
-------------------------------------	---	---	---	---

<p>3. 次代を生き抜く確かな学力の育成</p>	<p>ア. 学習成果が進路展望につながる授業を推進する。</p> <p>イ. 自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、授業への興味・関心を高める。</p> <p>ウ. 希望進路、習熟度に応じた効果的な授業・講習の展開。</p> <p>エ. 生徒一人ひとりに寄り添った丁寧な進路・学習指導の継続。</p> <p>オ. 異文化理解と多文化共生の考えを養う国際理解教育の推進</p>	<p>ア. 授業・講習、部活動の時間を精査し、生徒自身がタイムマネジメントの中で自学自習の時間の確保を図れるようにする。また、自らの意志で創意工夫をしながら学び続ける姿勢を養うため、自習室をはじめ、校内での自学自習環境を整え、授業との有機的な連携を図る。</p> <p>イ. 「すべての人に与えられている個性を生かす教育の場を願う」という建学の精神に基づき、学校教育活動全般に亘ってキャリア教育を行う。自らの適性の把握と確かな人生観・職業観を持たせ、教科学習への興味・関心を高める。</p> <p>ウ. 日常的に課題・小テストを実施し、その取り組み状況の把握を行い、学習指導に活用する。学習意欲の高い生徒に対して、早朝・放課後の進学講習を実施し、さらに学力を伸ばしていく。また、中高とも、到達度の低い生徒に対して補習を行い、日々の授業をわかるものにしていく。</p> <p>エ. 定期的な面談に加え、日常的に生徒への進路・学習指導を行う時間の確保する。</p> <p>オ. 中学 NZ 一ヶ月留学、高校 CAN 修学旅行をはじめとする海外プログラムを通して、英語学習への動機付けを行う。英語技能検定対策講座などのプログラムの充実を図り、学校全体として「使える英語力」の向上に努める。</p>	<p>ア. 生徒アンケート「授業への集中」項目の肯定回答 4.2(80%)以上。</p> <p>イ. 生徒アンケート各教科に対する「興味・関心」の項目において肯定の回答が全科目平均 4.2(80%)以上。</p> <p>ウ. 生徒アンケート「適切な授業のレベル」に関する項目の肯定回答が全科目平均 4.2 (80%) 以上。</p> <p>エ. 生徒との二者面談を毎学期 2 回以上行い、希望進路と学習状況を確認する。アンケート「丁寧な対応」4.2 (80%) 以上。</p> <p>オ. 英語科授業アンケート「向上への意欲」項目の肯定回答 4.0 (70%) 以上。</p>	<p>ア「授業への集中」は 4.3 と昨年同様の回答を得た。更なる向上を心掛けたい。(◎)</p> <p>イ若干ポイントは上がったが、4.0 と改善が必要。(○)</p> <p>ウ.4.29 ポイントと平均値より高く達成できている。取り組みについては、確率されてきた。(○)</p> <p>エ懇談の実施率は 100%。担任は丁寧な指導が出来ている。(◎)</p> <p>オ NZ 及び CAN はコロナ禍のため中止。 ・英検に関しては、294 名受験。2 級合格 14 名。準 2 級合格 38 名。3 級合格 35 名の結果である。(◎)</p>
---------------------------	--	---	--	--

<p>4. 教員の自己研鑽の推進と指導力向上</p>	<p>ア. 指導力向上のための研修開催。</p> <p>イ. 教科教授法の多角的な研究の推進。</p>	<p>ア. 学校および法人レベルでの研修を通し、教員が建学の精神を理解し、学園の教育方針に沿った指導力を向上させ、各種研修会、学校見学会に参加し教師としての力量を高める。</p> <p>イ. 校内研修の充実を図り、互いの教授法についての研鑽に努める。また、校外研修に積極的に参加し、教科教授法の多角的な研究を行うことで、授業力の向上を目指す。</p>	<p>ア. 校外研修への参加数、延べ100人以上。</p> <p>イ. 全教科において研究授業を実施。生徒アンケート「授業の工夫」、「話し方の良否」、「教材の工夫」に関する項目の肯定回答それぞれ 4.45 (90%) 以上。</p>	<p>ア 研修に関しては、中止が多かったが、その中でも、リモートによる研修参加も見られた。 (○)</p> <p>イ 授業の工夫 4.35。話し方の良否 4.36 教材の工夫は 4.35 とほぼ達成。 (○)</p>
----------------------------	---	---	--	--

